

エコアクション

21

対象期間

2022.11~2023.10



—環境経営レポート—

発行日 2024年 1月 29日

審査回数：更新8回目

(1) 組織の概要

1. 事業所名及び代表者名

サンワ化学株式会社
 代表取締役社長 西野 勝皓
 取締役相談役 西野 貫通

2. 所在地

(本社工場) 静岡県袋井市浅羽2777-1
 (同笠工場) 静岡県袋井市西同笠921-18



(工業薬品タンク群)

3. 環境管理の責任者及び担当者、連絡先

環境管理責任者 寺田昌隆
 本社事務局 水野 知
 同笠事務局 鈴木克昌 古本南早

連絡先 : TEL (0538)23-6611(代)
 : FAX (0538)23-7918
 : Eメール jim@sanwa-kagaku.com
 : URL <https://sanwa-kagaku.website>



(工業薬品運搬トラック)

4. 事業の内容

工業薬品の製造販売、水処理装置、化学装置の販売、化学洗浄工事

許可証名	登録番号	有効年月日
毒物劇物製造業	第63号(本社)	令和元年10月17日から 令和6年10月16日まで
毒物劇物製造業	第190号(同笠)	令和元年10月17日から 令和6年10月16日まで
毒物劇物輸入業	東海第10074号(同笠)	令和元年11月30日から 令和6年11月29日まで
毒物劇物一般販売業	西保B第 1-258号(本社)	令和4年11月28日から 令和10年11月27日まで
一般建設業の許可票	般-27 第36245号	—
アルコール販売事業許可書	2-3-00300(本社・同笠)	—
高圧ガス販売業	第30号-6(本社)	—
食品添加物製造許可	第69200800105号(本社)	令和10年5月末日まで
ISO 9001:2015	認証登録番号 06917	2026年10月16日まで
エコアクション21	認証・登録番号 0002171	2024年 2月 7日まで

5. 事業の規模

2022年度(2022年11月~2023年10月)

活動規模	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総製品生産量	t	14,424	14,551	15,944.80	16,171.00	15,937.80	15,019.20
売上高	百万円	1,950	2,066	2,031	1,608	1,980	2,257
従業員	人	74	81	93	47	48	53
床面積	m ²	6,309	6,309	6,429	2,886	2,886	2,886
(本社・工場)		(1,694)	(1,694)	(1,694)	(1,694)	(1,694)	(1,694)
(同笠工場)		(880)	(880)	(1,000)	(1,192)	(1,192)	(1,192)
(津事業所)		(2,071)	(2,071)	(2,071)			
(直方事業所)		(1,664)	(1,664)	(1,664)			

*2017年度から本社は上位主要5品目の生産量に変更。分社化により2020年度以降は本社・工場及び同笠工場が対象範囲

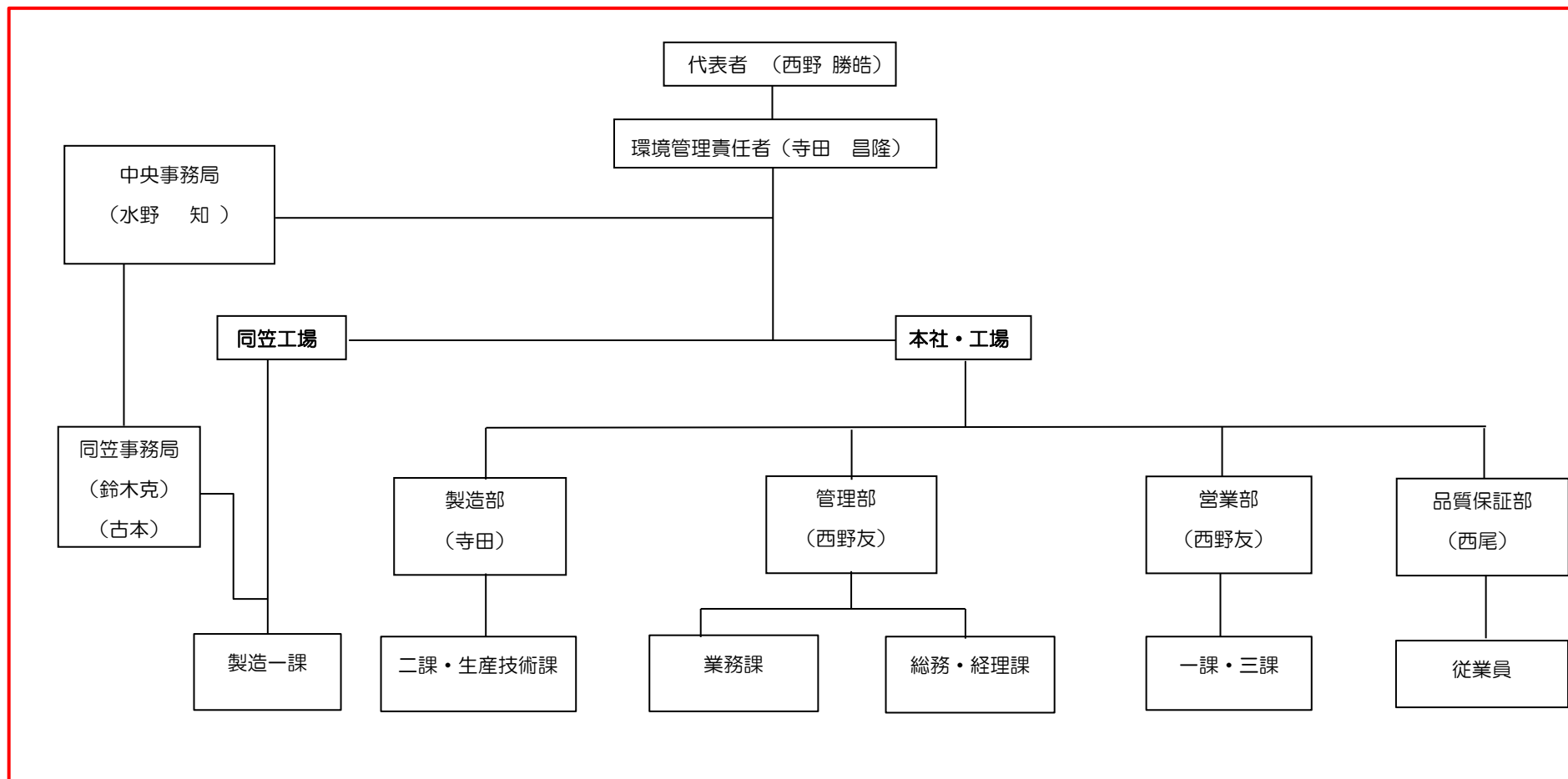
(2)-1 対象範囲

○事業の内容

工業薬品の製造販売、水処理装置、化学装置の販売、化学洗浄工事

エコアクション21 サンワ化学組織図

※対象範囲は赤枠



(2)-2 各自の役割及び責任・権限

●代表者

- ①環境経営方針を定め、全従業員に周知する
- ②環境責任者を定める
- ③資源（資材・資金・技術）の提供
- ④システム全体の評価と見直しを行い、必要な指示を行う

●環境管理責任者

- ①システムの総責任者としての役割権限を他の責任に関わりなく持つ
- ②システムの実績を代表者に定期的に報告する

●中央（本社・工場）事務局員

- ①全体及び本社・工場の計画の立案
- ②環境経営レポート等の文書の作成管理
- ③各事務局合同会議の実施
- ④システム運用上の事務管理

●同笠工場事務局員

- ①同笠工場の計画の立案
- ②環境への負荷の自己チェック表等の文書の作成管理
- ③従業員への一般教育等の実施
- ④活動内容の把握、効果の確認

●各課部署長

- ①活動計画の推進
- ②作業教育の実施
- ③実施状況の確認

●各従業員

- ①活動計画の実践
- ②取組への積極的な参加

経営理念

我々は社会の一員であることを理解し、地球規模で広がる
環境問題に対し、持続可能な社会の実現のために努める

経営方針

1. 自然環境及び生態系の保全、維持に配慮する
2. 環境関連法規を順守する
3. 排出物や廃棄物の抑制に取り組み、循環型社会を
目指し努力する
4. 当社の取り扱う製品、サービス及び事業活動により発生する環
境負荷を調査し、継続的な改善を行う
5. 環境経営方針は全従業員に周知する

改訂日：2023年 3月 1日

サンワ化学株式会社 代表取締役社長 西野勝皓

(4) 環境経営目標

(4)-1 当年度の環境目標

(2021年度実績値基準)

項目	単位	2022年度目標	目標数値	
本社・工場/ 同笠工場	CO2排出量 (購入電力、化石燃料を対象)	kg・CO2	+2%	275,291.78
	購入電力	kwh	+15%	205,847.70
	ガソリン使用量	L	前年度維持	10,559.00
	軽油使用量	L	前年度維持	80,149.00
	LPG使用量	kg	前年度維持	5,308.00
	産業廃棄物排出量	t	+10%	59.70
	一般廃棄物排出量	t	前年度維持	38.90
	総排水量	m ³	前年度維持	10,038.00
	化学物質	-	適正管理	適正管理
	調整回数	回	2回以内	2回以内

(4)-2 中長期目標

各事業所単独目標

(2022年度実績値基準とする)

項目	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標	
本社・工場/ 同笠工場	CO2排出量	±0	-3%	-3%
	購入電力	+10%	+5%	+5%
	ガソリン使用量	±0	-8%	-8%
	軽油使用量	±0	-5%	-5%
	LPG使用量	-1%	-2%	-2%
	産業廃棄物排出量	-1%	-5%	-5%
	一般廃棄物排出量	-1%	-2%	-2%
	総排水量	-1%	-5%	-5%
	化学物質	適正管理	適正管理	適正管理
	不適合製品の調整回数の低減	2回以内	2回以内	2回以内

(6)-1 当年度の環境活動内容 本社・工場、同笠工場

2022年度（2022年11月～2023年10月）

1. 二酸化炭素排出量、購入電力、化石燃料

取組目標	単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	本社・工場、同笠工場		2022年度スケジュール											
							責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1 電気使用量 対前年度+15%	kwh	205,847.70	174,665.0	31,182.7	-15.15	不使用時、退室時の照明OFF	寺田 昌隆	水野 知	取組実施						見直し トレーニング					
						機器のタイマー・センサー制御 化の推進			取組実施						取組実施					
2 ガソリン使用量 対前年度維持	L	10,559.00	10,231.00	-328.00	-3.11	アイドリングストップの徹底	西野 友善	永井 祐介	取組実施						見直し トレーニング					
						車両更新時の低燃費車購入			取組実施						取組実施					
3 軽油使用量 対前年度維持	L	80,149.00	67,495.60	-12,653.40	-15.79	車両運行管理(燃費管理)	吉岡 秀哲	吉岡	取組実施						見直し トレーニング					
						車両更新時の低燃費車購入			取組実施						取組実施					
4 LPG使用量 対前年度維持	Kg	5,308.00	5,331.90	23.90	0.45	温水使用状況の確認	水野	平出	取組実施						見直し トレーニング					
						温水洗浄時間短縮方法を検討す る			鈴木 俊	取組実施						取組実施				
活動実施確認・評価										3月17日確認・評価実施			6月16日確認・評価実施			9月15日確認・評価実施			12月14日確認・評価実施・締め	

2. 廃棄物排出量

取組目標	単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	本社・工場、同笠工場		2022年度スケジュール											
							責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1 産廃(廃7種類) 対前年度+10%	t	59.70	71.50	11.80	19.77	ビニール袋・ダンボール等分別の徹底	水野	鈴木 俊	取組実施						見直し トレーニング					
						産廃と一般廃棄物の分別の徹底			取組実施						取組実施					
2 一般廃棄物(鉄く 入、段ボール)	t	38.90	5.65	0.15	-564.63	ビニール袋・ダンボール等分別の徹底	寺田 昌隆	寺田 昌隆	取組実施						見直し トレーニング					
活動実施確認・評価									3月17日確認・評価実施			6月16日確認・評価実施			9月15日確認・評価実施			12月14日確認・評価実施・締め		

3. 総排水量

取組目標	単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	本社・工場、同笠工場		2022年度スケジュール											
							責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1 総排水量 対前年度維持	m	10,038.00	4,887.13	-5,150.87	-51.31	雨水利用設備の検討・導入 容器、設備の洗浄方法改善 (節水)	寺田 昌隆	寺田 昌隆	取組実施						見直し トレーニング					
活動実施確認・評価									3月17日確認・評価実施			6月16日確認・評価実施			9月15日確認・評価実施			12月14日確認・評価実施・締め		

4. 化学物質

取組目標	単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	本社・工場、同笠工場		2022年度スケジュール											
							責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1 -	-	適正管理	-	適正管理	-	使用量の把握 適正保管・管理	寺田 昌隆	寺田 昌隆	取組実施						見直し トレーニング					
活動実施確認・評価									3月17日確認・評価実施			6月16日確認・評価実施			9月15日確認・評価実施			12月14日確認・評価実施・締め		

5. 不適合製品の調整回数

取組目標	単位	目標数量	実質数量	削減数量 (前年比)	割合(%)	活動内容	本社・工場、同笠工場		2022年度スケジュール											
							責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1 2.00	回	2.00	0.00	2.00	100.00	不適合による調整回数把握 是正・予防処置の実施確認	西尾	寺田 昌隆	取組実施						見直し トレーニング					
活動実施確認・評価									3月17日確認・評価実施			6月16日確認・評価実施			9月15日確認・評価実施			12月14日確認・評価実施・締め		

6. 法令遵守活動

取組目標	活動内容	本社・工場、同笠工場		2022年度スケジュール											
		責任者	担当	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1 廃棄物の処理及び清掃に関する法令遵守	年一回以上廃棄物処分の実地確認を実施する	寺田 昌隆	水野 知	取組実施						見直し トレーニング					
2 フロン排出抑制法の遵守	マニフェストの適正管理			取組実施						取組実施					
3 第一種特定製品の定期点検実施	第一種特定製品の定期点検実施			取組実施						取組実施					
活動実施確認・評価				3月17日確認・評価実施			6月16日確認・評価実施			9月15日確認・評価実施			12月14日確認・評価実施・締め		

(7)-1 環境経営目標の実績 本社・工場、同笠工場

1 環境目標

2022年度の取組みは2022年11月から期末2023年10月までの取組みとなります。

*本社・工場：購入電力の二酸化炭素の調整排出係数0.284Kg・CO2/kwh（リコージャパンR1年度公表 メニューC調整後排出係数適用）

*同笠工場：購入電力の二酸化炭素の調整排出係数0.452Kg・CO2/kwh（中部電力ミライズR2年度公表 メニューB調整後排出係数適用）

	単位	削減目標 数値	実測値	結果	
1	二酸化炭素排出量の削減 (2021年度実績ベースに+2%)	kg・CO2	275,291.78	269,254.51	○
2	購入電力使用量の削減 (2021年度実績ベースに+15%)	kwh	205,847.70	174,665.00	○
3	購入化石燃料使用量の削減 (ガソリン) (2021年度実績ベース±0)	L	10,559.00	10,231.70	○
4	購入化石燃料使用量の削減 (軽油) (2021年度実績ベースに±0)	L	80,149.00	67,765.60	○
5	LPG使用量の削減 (2021年度実績ベース±0)	kg	5,308.00	5,331.00	×
6	産業廃棄物排出量の削減 (2021年度実績ベースに+10%)	t	59.70	71.50	×
7	一般廃棄物排出量の削減 (2021年度実績ベースに±0)	t	38.90	5.65	○
8	総排水量の削減 (2021年度実績ベースに±0)	m ³	10,038.00	4,887.13	○
9	化学物質の適正管理	-	-	-	-
#	製造品調整回数	回	2.00	0.00	○

※廃棄物排出量に関しては産業廃棄物と一般廃棄物のみ適用。

×当年度に鉄くず、プラスチック容器の有償にて再生している物を含めている為数量が大きくなった。

2 環境負荷実績

当社における二酸化炭素の排出量、廃棄物の排出量、水の使用量の2022年度の実績は以下の通りです。

※2019年度までは津及び直方を含めた全社の数値ですが、分社化により2020年度以降が本社・工場単独の数値となっています

項目	単位	2019年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		2019年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
二酸化炭素排出量	絶対量	Kg・CO2	473,260.68	473,260.68	266,983.04	295,582.82	269,254.51
	製造量1t当たり	Kg・CO2/t	39.33	39.33	24.82	18.55	17.93
電気	絶対量	Kg・CO2	545,508.00	545,508.00	157,792.00	157,115.35	174,665.00
	製造量1t当たり	Kg・CO2/t	45.34	45.34	14.67	9.86	11.63
ガソリン	絶対量	Kg・CO2	13,626.93	13,626.93	10,786.80	10,559.00	10,231.70
	製造量1t当たり	Kg・CO2/t	1.13	1.13	1.00	0.66	0.68
軽油	絶対量	Kg・CO2	89,446.28	89,446.28	76,557.40	80,149.00	67,765.60
	製造量1t当たり	Kg・CO2/t	7.43	7.43	7.12	5.03	4.51
LPG	絶対量	Kg・CO2	3,012.28	3,012.28	822.30	5,308.00	5,331.90
	製造量1t当たり	Kg・CO2/t	0.25	0.25	0.08	0.33	0.36
2 総廃棄物排出量	絶対量	t	76.12	76.12	33.49	74.84	77.15
	製造量1t当たり	t/t	0.006	0.006	0.003	0.00	0.005
3 総排水量	絶対量	m ³	9,638.47	9,638.47	5,273.00	10,038.00	4,887.13
	製造量1t当たり	m ³ /t	0.80	0.80	0.49	0.63	0.33

総商品生産量	単位	2019年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	t	12,032.00	12,032.00	10,755.00	15,937.80	15,019.21

(7)-2 2022年度環境経営活動の取組確認、評価表

(2022年11月～2023年10月)

※確認・評価実施者：環境管理責任者

項目	確認・評価実施月日：	確認・評価実施月日：	確認・評価実施月日：	確認・評価実施月日：	評価実施月日：12月14日
	3月17日	6月16日	9月15日	12月15日	総合評価
	確認及び評価の内容	確認及び評価の内容	確認及び評価の内容	確認及び評価の内容	
温室効果ガス 排出量 (CO2)	生産、排出量の状況確認	同左	同左	同左	本社・工場並びに同笠工場共に年間生産量が減少傾向で 目標数値も下がった。
購入電力	設備不使用时の電源 OFF実施	同左	同左	同左	節電による目標数値を下回った
ガソリン使用量	営業社員の通勤が社用 車に変わった	同左	同左	同左	昨年同様社用車の通勤手段と、本社・工場、同笠、宇刈 の分散化で移動する頻度と営業頻度が増えたが目標数 値以内だった
軽油使用量	運行管理・燃費の実情把 握	同左	同左	同左	配送量はそれほど増えてなく、燃料消費の目標数値が上 回ってしまった
LPG使用量	本社・工場、同笠工場に よる温水の使用状況の 確認	同左	同左	同左	同笠工場亜硝酸ソーダの短納期に合わせる為温水の使 用量が増えてしまった 本社・工場は製造での温水使用量が目標値を下回った
総排水量	タンク洗浄水低減によ る排水量低減及びその 他	同左	同左	同左	同一製品連続製造で、洗浄回数が減り目標数値以内で済 んだ
廃棄物排出量	有価物の数量把握	同左	同左	同左	昨年まで一般廃棄物の管理だったが、産業廃棄物での管 理となり、有価物だが排出数量が増えた。
化学物質	危険物、毒劇物の適正保 管	同左	同左	同左	本社・工場に少量危険物庫が作られ、毒劇物も在庫分は 同笠工場での適正保管がされていた
製造品調整回数	不適合製品報告書の監 視	同左	同左	同左	今期も不適合製品が無かった

(8) 環境関連法規への違反、訴訟の有無

1. 環境関連法規等の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果(2022年12月10日)現在、違反はありませんでした。

法規・条例・規制	適用内容又は規制基準値	備考	対象事業所		遵守状況
			本社	同笠	
水質汚濁防止法	・適用される排水基準を遵守	環境基本法及び袋井市での基準を参考に法令遵守	●		○
		水濁法指定化学物質の把握(硝酸)	●		○
	・排水の水質測定を行いその結果を記録する	毎月 COD検査 年1回 分析機関にて測定	●		○
	・構内から有害物質の浸透を起こさない	定期的な点検・補修	●	●	○
騒音規制法	・法令遵守	規制基準順守、設置届			○
悪臭防止法	・敷地境界にて悪臭の発生が無い事	近隣からのクレーム無し	●	●	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・保管施設の表示と保管基準の遵守	掲示板	●	●	○
	・収集運搬業者及び処分業者との委託契約	収集運搬、処分業登録許可証の確認	●	●	○
	・マニフェストの管理	A票、B2票、D票、E票の返却・管理	●	●	○
	・マニフェストの期間内返却	90日以内又は180日以内	●	●	○
	・マニフェスト写しの保管	5年間	●	●	○
	・委託契約書の保管:5年間保存	許可書更新:5年	●	●	○
	・マニフェスト交付状況の報告	法令遵守	●	●	○
	・処理、委託先の現地確認	現地確認の実施	●	●	○
	・水銀使用製品産業廃棄物の適正管理	破砕の無いように保管し許可業者に処理を依頼する事	●	●	○
毒物及び劇物取締法	・毒物劇物輸入業登録	毒物劇物取締法第4条規定 有効期間の確認	●	●	○
	・毒物劇物一般販売業登録	毒物劇物取締法第4条規定 有効期間の確認	●	●	○
	・毒物劇物製造業登録	毒物劇物取締法第4条規定 有効期間の確認	●	●	○
アルコール事業法	・アルコール販売事業許可	アルコール事業法規定 H13年4月1日許可通知	●		○
消防法	・危険物製造所等設置許可(消防法第11条規定)	危険物屋内貯蔵所、製造所、取扱所設置許可	●	●	○
	・設備点検実施	定期的に危険物施設を点検する事	●	●	○
					○
労働安全衛生法	・労働安全衛生法規定 法令順守	適正管理・適正資料の保管	●	●	○
	・酸素欠乏作業に関する法令	作業主任者の選任 (寺田 昌隆)	●		○
	・特定化学物質の取扱いに関する法令	作業主任者の選任 (寺田昌隆/鈴木俊/西尾祐介)	●		○
	・有機溶剤作業に関する法令	作業主任者の選任 (辻 正高)		●	○
	・フォークリフトの有資格者運転	技能講習修了者による運転	●	●	○
	・保護具の適正管理、完全着用	部署長による指導、監視の実施	●	●	○
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR制度)	・法令遵守	定期的に参考資料の確認	●		○
		指定化学物質の移動の把握	●		○
食品衛生法	・添加物製造業営業許可	食品衛生法第52条規定 許可期限の確認	●		○
	・食品等取扱者の検便		●		○
	・食品添加物製造設備定期点検の実施		●		○
浄化槽法	・法令遵守	設備届出・定期保守点検・定期清掃	●	●	○
		水質の定期検査(11条検査)の実施	●	●	○
フロン排出抑制法	・第一種特定製品の設置環境・使用環境の維持保全	本社・工場: 12台 同笠工場: 8台	●	●	○
	・簡易点検を実施し記録を作成し保存する		●	●	○
	・漏洩、故障等が確認された場合は許可業者に依頼する事	第一種フロン類充填回収業者	●	●	○
	・機器廃棄時、関係書類の保管	廃棄後3年間保管(回収依頼書、引取証明書、点検記録等)	●	●	○
自動車リサイクル法	・法令遵守	廃棄時、法に基づく手順を実施する	●	●	○
小型家電リサイクル法	・法令遵守	廃棄時、法に基づく手順を実施する	●	●	○
家電リサイクル法	・法令遵守	廃棄時、法に基づく手順を実施する	●	●	○
静岡県条例	・産業廃棄物の適正な処理に関する条例第8条	産業廃棄物管理責任者の設置	●	●	○
	・産業廃棄物の適正な処理に関する条例第10条	運搬又は処理の状況等を実地確認し、不適正は報告する	●	●	○

* 其々の法令、規制等が該当する事業所は●印で表し、法令順守しているときは○印で表現しています

2. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

(9)-1 代表者による全体の評価と見直し・指示

定期見直し 臨時見直し

代表者署名		西野 勝皓	環境管理責任者署名		寺田 昌隆		
見直し実施日		2023年 12月 14日		情報提供日		2023年 12月 14日	
見直し項目		実績評価		見直しの必要性		指示（変更の有無）	
1 組織の概要、事業内容		新組織が定着し始めている 既存事業に付加価値を付けるほか、新規事業に取りくんでいる		他部署へ協力をもう少し望む この状況で如何に顧客に提案していくか		部署間の意見交換 引き続き食品業界の開拓と受託製造案件を開拓	
2 対象範囲、取組の組織、役割		取り組みの進捗状況の報告が少ない		所属部内での検証が不十分		リーダーが進捗状況を把握する	
3 経営方針		安全が全てに優先する 設備投資の為に利益確保		事故は起こる事を想定する 営業部門の積極性		顧客のニーズを拾う 顧客への提案	
4 環境経営目標		そのまま継続する		改善提案が反映されているか		5Sの取り組み	
5 次年度の環境経営計画		省エネ、ごみ削減		納品、生産の効率化		現状の検証	
6 当年度の環境活動内容		項目により計画に対して増減はあるが、概ね結果は良好です。		総排水量と廃棄物と電力量の見直しが必要		全員が意識を持って関わる	
7 環境経営目標の実績	CO2 排出量削減	生産量からすると妥当な結果と思う。		特になし		削減の努力を継続する。	
	電力使用量削減	生産量及び売上金額増からすると妥当		作業効率を上げて節電に結び付けたい		引き続き生産工程の見直し	
	ガリリ使用量削減	削減とまではいかない		納品、営業の効率化		ルートの検討	
	軽油使用量削減	削減とまではいかない		経済活動に影響される		外部委託も考慮する。	
	LPG 使用量削減	温水使用条件の見直し		温水使用条件最適化の向上。		品質に影響しない様に	
	産廃排出量削減	前年並み		仕入れ商品の過剰包装の見直し要請。 継続		分別廃棄継続	
	総排水量削減	削減できた		洗浄水の節水		容器洗浄の効率化	
	化学物質管理	概ね管理はされている。		概ね管理はされている。		知識の共有	
	製造品調整回数	製造者の技量は上がっている		原因、問題点、対策を全員が理解するまで教育		引き続き回数ゼロをめざすこと	
8 環境関連法規等の遵守状況		法令遵守は経営、従業員共に守っている。		関係する法令には常に注意する		社内研修で共有する	